

食品加工機械の販売促進でアンテナショップも計画 ハイテックのタイ法人HITEC FOOD EQUIPMENT CO., LTD.

ハイテック(横浜市)はハム、ソーセージ等、食品加工機械の製造・販売をメインとする会社で1976年8月に東京で設立されている。現在ではソーセージの充填機およびその関連製品が全売上高の9割を占めるメイン製品となっており、日本では日本ハム、伊藤ハムなど大手を含むほとんどのハム、ソーセージメーカー数百社を顧客にしている。2003年にタイに進出、バンコクにHITEC FOOD EQUIPMENT CO., LTD. を設立してから今年で15周年。日本の親会社であるハイテックの中村伸二郎専務がタイ法人の社長を務めているが「中国法人(青島)の董事長も兼務しており、日本の営業も私が担当しています。このところ日本も忙しくなっており、タイには毎月来ていますが、毎回1週間以内の滞在が多い」と席を温める暇もないほどアジアと世界を飛び回っている。

ハイテックでは1976年にソーセージ一本切り自動切断機を開発して製造販売を開始した。その後、独自開発し特許を取得した機械も多いが、例えば78年にソーセージ定量充填機、80年にハム定量充填機、81年にソーセージ高速自動充填機、1998年には後に財団法人機械振興協会の「中堅・中小企業新機械開発賞」を受賞することにもなった天然腸定寸充填機の「リンクウェル」、2004年には自動竿取り省人化ラインも開発して市場に投入してきた。

日本のハイテック本社の創業社長である中村實氏の長男にあたる中村達郎氏が現在の日本本社であるハイテックの社長を務め米国・欧州も担当している。そしてタイなどアジア地域を担当する中村伸二郎専務は次男にあたる。ハイテックのタイ法人であるHITEC FOOD EQUIPMENT CO., LTD.の中村伸二郎社長(以下中村専務)をバンコクで取材したが、タイで販売している同社のハムやソーセージ関連機械などの顧客のほとんどがタイ企業という。「現在のタイでは日本食が大ブーム。増えているしゃぶしゃぶやすき焼きの店向けにはお肉のスライサー、日本風の餃子や中華マンなどの製造機やお菓子向けの包餡(あん)機など高価格でも高品質な日本製の他社機の引き合いも増えている」と中村専務。

中村専務はかつて銀行マン(横浜銀

行)として1年間ほどタイに駐在していたことがありその時にバンコクでタイ語も学んでいたという。しかし1997年7月にタイで発生したアジア通貨危機でタイの銀行業務が縮小する中で日本に戻った。その数年後にはハイテックの創業社長をしていた父親からハイテック入社を求められた。「銀行マンとしてタイでタイ語を習ったものの、日本に帰国後はほとんど使う機会はありませんでしたが、今になって役立っています」という。

ハイテックでは既に東南アジアへも輸出していたが、タイ事情を知り言葉も通じる中村専務がタイではもっと売れるはずと思い、2003年にタイ現地法人としてHITEC FOOD EQUIPMENTを設立することになった。ハイテックでは90年代から機械販売でタイに代理店を構えていたが、この代理店経由ではまったく売れなかった。そこでハイテック自らタイに進出することを決めたもの。

タイでも社名の「ハイテック」に恥じない品質と販売前の設計、提案などで各顧客の要望に応えるとともに、慎重に機械を据え付け、そして販売後のアフターサービスの充実を意識して顧客満足が得られるチーム体制で取り組んでいる。タイでは日本語ができるスタッフもいるが、日本人は中村専務だけ。マネージャーを含む9人が営業を担当しており内

2人が内勤の女性で注文を受けたりしている。重視するメンテナンス部門には10人が属しておりその内で7人ほどが外回りで3人の内勤が部品の手当を含む活動を社内で支えている。「販売している機械は1台数百万円ほどの機械が多いが、ラインで受注できれば億円の単位になります」と中村専務。

現在のHITEC FOOD EQUIPMENTの本社はバンコクのB T S(高架鉄道)のオンヌット駅からは歩けないほど離れているオンヌット通りから更に奥に入ったところにあるが、業容拡大に対処するため、近くB T Sのベアリング駅とサムロン駅の中間にあるビルに引っ越しする。「まだ決定はしていませんが、そのビルの1階に当社で取り扱う食品機械を設置しその機械で作った食品を食べてもらえるアンテナショップをオープンしたい」と中村専務は考えている。自社製造や扱っている食品加工機械を展示、実際に稼働して食品を作る実演を見てもらって、出来たばかりの食品を食べてもらえるようにすることで「タイ市場での当社の知名度向上につなぎたい」と中村専務。「B T Sの駅の付近に会社があればよい人材にも来てもらえるのではないか」とも考えている。

現在はまだ決めてはいないが、いつか他の東南アジアにも進出したいと中村専務は考えている。その場所

については「我々の機械の需要は人口が多いところにしかありません。ですからベトナムならホーチミン、インドネシアはジャカルタになるでしょう」と言う。

世界の食品加工機械関連の見本市に積極的に出展

ハイテックでは日本だけでなく世界各国で開催される食品加工機械に関連した見本市に積極的に出展することを重視している。2017年9月にはアメリカ大陸で最大級の食品加工機器に関する展示会としてシカゴで開催された『PROCESS EXPO 2017』に出展、同年同月には中国の長沙で開催された国際食肉見本市である『Meat Expo China』にも出展したが、『Meat Expo China』は世界最大の食肉産業機械国際見本市「IFFA」の姉妹見本市。同年にはメキシコなどの見本市にも出展した。

タイでは2018年2月にバンコク国際貿易展示場(BITEC)で開催された『FOOD PACK ASIA』に出展を行い中村専務も自社のブースに陣取って来客と対応したが、同展には毎年出展している。2017年6月には同じBITECで開催された食品加工・包装に関してアジア最大級の国際見本市とされる『ProPak Asia 2017』(第25回目)にも出展したが、この見本市にも毎年出展している。「今年も6月に参加する『ProPak Asia』は年を追うごとに規模と内容を拡充させてきており、今やアジアの食品加工で見

逃すことができない重要な展示会。世界各国からの来場者との商談もできる」と中村専務は評価している。2017年の『ProPak Asia 2017』には42カ国から1,570社が出展して会期中の4日間に4万5,000人が来場したと主催者が発表している。

ハイテックでは1986年にドイツのフランクフルトで3年に1度開かれる「IFFA(イファ)見本市」に製品を初出展して大きな反響を獲得したという。「フランクフルトソーセージ」で知られるフランクフルトはソーセージのメッカ。このIFFAにハイテックは現在も毎回出展して中村社長とともに中村専務も会場にへばりつく。「自社製品の売り込みだけでなく、この展示会には中国を含むアジア各国や欧州各国、北中南米など世界中から来場者が多くソーセージ製造などで世界の最新情報が得られることも出展する狙いです。引き合いも毎回得ています」と(同)という。

ハイテックでは欧州機械の代理店販売も行っている。例えば肉をミンチにするポーランド製の機械の代理店もしているが、「このポーランドの会社ともIFFAで知り合った」と(同)そう、扱っているドイツ製の燻煙機械である「スモークハウス」も同じ経緯で知り合った。今年2月のバンコクでの『FOOD PACK ASIA』にも「スモークハウス」を出品してPRに力を入れたが、「日本製より安く品質も良いので評価は高いものの、同じ見本市にはドイツの他のメーカーも同様の機械を出品していたなど販売競争は激しい」と中村専務は説明した。

1996年にはハイテック初の海外法人として米国のシカゴに「HITEC FOOD EQUIPMENT INC.」を設立している。米国に進出したのも「お肉の本場だから」と(同)であり、同年には米国の「World wide Food Expo」にも初出展し、出品した高速充填機「HITEC M-3」が大

きな反響を得たという。ハイテックではこれら出展で得た情報をもとに2005年にやはりお肉の本場であるオランダ・アイントホーベンに欧州販売統括会社として「HITEC FOOD EQUIPMENT BV.」を設立して進出した。しかし欧州は「思うようには当社の機械が売れない難しい国でした。それぞれの国の文化も違い、人件費も高く販売も伸び悩んだことからしばらくして撤退しました」と(同)という。

2014年には中国の青島に「HITEC FOOD MACHINERY CO.,LTD.」を設立した。青島に進出するきっかけはタイでの重要顧客であるタイのC P(チャロンボカパン)が青島に進出したからで、C Pに納入した食品機械のメンテナンスも青島で実施している。C Pはタイから世界の各国に進出している多国籍企業で中国に初進出した外資、中国最大の外資系企業として有名で通信、流通など広範囲のビジネスを手掛ける中で食品分野が大きい。

ハイテック本社の営業部長も兼務している中村専務の名刺の肩書に「食品機械工学技士、お肉博士1級」とある。中村専務はかつて早稲田大学で社会科学を専攻していた。

タイ政府に対する中村専務の要望は「タイの政治が安定すること、大きな政策変更をしないこと」。タイでの機械製造はまだ行っていないが、機械の日本や欧州からの輸入に課けられている「関税1%に不満はありませんが、消耗した機械部品の取り換えで必要となる部品輸入への関税は10%。この関税を引き下げて欲しい」というのが中村社長の希望。

ハイテック本社住所：〒226-0026
横浜市緑区長津田町2565-8
TEL：045(983)5000
設立：1976年8月
事業内容：ハム、ソーセージ等食品加工機械の製造・販売
タイ法人「HITEC FOOD EQUIPMENT CO., LTD.」
中村伸二郎社長のEメール：
s_nakamura@hitec-jp.com
http://www.hitec-th.com
(アジア・ジャーナリスト 松田 健)



2018年2月にバンコク国際貿易展示場(BITEC)で開催された『FOOD PACK ASIA』に出展した時の中村専務